夕刊
磐城時報
十六日發行
福島縣平市紺屋町十四
編輯兼發行人　岡田弘成
福島縣平市紺屋町十四
印刷所　磐城時報社
福島縣平市紺屋町十四
發行所　磐城時報社
一部金貳錢　一ケ月金卅錢
廣告料一行十四字詰五十錢
日刊（日曜祝祭日）翌日休刊

もう一息で五十萬圓
事變國債の賣行に見る
市民の賴母しき愛國心

平郵便局では一昨年十一月支那事變國債第一回賣出し以來本年六月發行の第十一回までに四十七万一千五百五十圓を賣り捌き東北六縣一、二等ならびに特定三等局二十七局のうち仙臺の百十四萬七千圓、青森の六十一万三千圓に次ぎ第三位といふ好成績で、二等局で第一位、福島、山形、弘前、秋田、盛岡の一等局を凌駕する賣行きを示してゐる、來る二十一日から賣出す第十一回事變國債も既に一万九千四百圓位の消化が豫想されてゐるが、これは從來の消化額にくらべると最も少く、前記二十七局中でも第十四位といふ低位にあるので同局では一戸一枚必ら

局長以下局員一同は此際市民の愛國心に訴へて一層の協力を求めることとなつた、尙第一回以來の同局國債賣捌額は左の通りである

十二年十一月	四一、	六二五圓
十三年二月	二八、	〇五〇圓
同　四月	三二、	九二五圓
同　六月	四二、	三七五圓
同　八月	二三、	四四〇圓
同　十月一〇六、	七二〇圓	
同　十二月	六七、	八〇〇圓
十四年二月	四一、	一五〇圓
同　四月	五九、	五四〇圓
同　六月	二七、	九二五圓
合計	四七一、	五五〇圓

防空訓練　殊勳甲！
平・植田警防團の譽
家庭防空群個人も表彰

縣警防課では過般行はれた防空訓練に活躍した警防團、自衛團家庭防空群の優良團体ならびに個人優良者を表彰することになつた、地方關係では警防團では平、植田の兩團、自衛團は植田小學校、古河好間炭礦、片倉磐城製糸、湯本小學校の團体でその他家庭防空群、善行美談功勞者として表彰されたものは左の通り

▲家庭防空群　平市第十三區第二十群、同第六群、第十五區第四群、第十六區第十二群、第十七區第一群、小名濱町第一區第七群、第二區第四群、第三區第九群第四區第三群、植田町第四群第二十四群、四倉町各防空群

▲善行美談功勞者　夏井村坂本登、好間村萩谷よし、同村鈴木正春、同村大谷忠彌、湯本町三島勝義、江名

町佐藤よし、內郷村佐藤作造赤井村海野市郎、磐崎村矢內武雄、勿來町北郷行雄、四倉町金成岩吉

接客業者健康診斷

平は二十四日に平署管內接客業者の健康診斷は十四日から行はれてゐるが十七日以後の日割左の如く平市は飯

歸還兵の選擧名簿
九月五日現在で調製
けふ選擧事務打合せ

平市及び石城郡の選擧事務打合せ會は十六日午前十時から市會議室で開催、縣から振興聯盟富澤主事、武藤、須藤屬出席、郡市町村長ならびに選擧事務主任六十名に對し種々指示注意した應召軍人に對する選擧名簿取扱ひは召集解除の歸還兵は九月五日現在で名簿に登載することとなつた

手當を献金

市內久保町古田部胤政君は警防團員として機械点檢その他に出動して受けた手當一回二十錢を國防献金に市役所へ寄託した

椎根君村葬

去る五月中支戰線で名譽の戰死をとげた內郷村大字宮出身椎根菊雄上等兵の村葬は二十日午後一時から同村第二小學校で執行

前線から香花料

市內中平窪出身相田豊二、四波出身小野德治兩君は目下中支の第一線にあるが過般縣の慰問使として同方面を訪れた蓮沼縣議に託して金二十圓を舊平窪出身戰死者の佛前に供へてくれるやうにと屆けて來た

野、神谷、夏井各村と共に二十四日午前九時から同署會議室で清水、星、實川、金成、大和田木村（淳）鈴木（亮）吉田、軍田、新妻、五十嵐、安齋、鈴木（定）の各醫師により行はれる

▲十七日江名小學校、永崎分教場▲十八日小名濱警防團本部、湯本上町公會堂▲二十三日豊間、薄磯公會堂▲二十四日平署會議室

郷軍武術大會

在郷軍人石城郡聯合分會主催第十一回武術大會を十九日午前八時から射擊は神谷村東部射擊場銃劍術、軍刀術は湯本小學校で擧行する

やぐら踊は不可
舊盆に平署自肅要望

今年も二十七日から舊盆に入るは大同年間同藥師創建以來つづけられてゐる行事で當日は午前二時頃から參詣者が殺到する

× ×

町役場へ戰地から匿名で十三圓を銃後會資金にと送つて來た勇士があつた、役場でこの奇篤な勇士を調査中

臨海學校便り
（六）　平第一校臨海團

八月十二日（土）曇、晴曇

五時半起床、昨日の疲れも大体恢復したやうだ、先づ空を仰ぐ。昨日の樣な快晴は望めないかも知れない、どんよりした鉛色の空である。築港の砂濱に行き朝のすがゝしい大氣を呼吸しながら元氣一杯ラヂオ体操をした。

朝食後勉强、八時半頃波立藥師詣りに出發した。岩角を傳ひんでこの竹の水深だら底まで見かに取り乍らトンネルをくゞりえるさうである。ずつと沖に鯛或は波打際のきれいな砂利を踏を取つてゐる船が五、六艘見えみしめて藥師堂についた。參拜た、その邊は磯だといふ話に一して境內を見學しながら十時築寸驚かされる。現在の主なる漁港の所にかへつた、丁度今日は場は櫂谷を根據地とした金華山天候が靜かで波も低いため急に沖なさうである、又船は四五百待望の船乘會を催すことになつた、遠い時は七八百浬の沖まで行つて魚を取り、それに要する日數は二週間以上にも及ぶといには船酔を心配する者も二、三ふ話におどろいた、意氣と勇氣人あつた。船頭さん達の厚意に濟ちた海の人に偉大な力强さより準備が出來て直に乘込んだを感じた。

間もなく船は岸壁をはなれる、エンヂンの音が輕くなり始めた一同大はしやぎ、築港を出る頃からうねりが少し大きくなり、エンヂンの響も早くなつて來た生れて初めて日本の陸をはなれるのだ。船は兩舷にしぶきを上げ乍らぐん〳〵進む、船はだん〳〵陸を遠ざかる、思はずみんなで太平洋行進曲を歌ひ出した紺青の空、紺碧の水を見つめながら本當に『海の民』の勇壯な姿になり切つて了つた。船は五百米位の沖を陸と並行に捷屋崎燈臺を目標にして進む、海岸の白い砂、松の綠、並ぶ街の家々海水浴をしてゐる人の姿は極く小さくしか見えない。蛤を取つてゐる船が三艘ばかりゐた、お互に手をあげて喜んだ。

築港の南千五百米位で方向を換へて引きかへし、波立沖に進んだ、この邊の海の深さをきいたら大体九尋位だとのこと、本當に水の色は眞青である。白濱に近い方は水がにごつてゐて綠茶色だ。船頭さんのお話では今日は大風でとてもよい日だとのこと、又或時は水がきれいに澄着した溺死体は平署で檢死の結果久之濱沖合で遭難の第五幸壽丸水夫長宮城縣本吉郡生れ中村松太郎（五五）と判明した

船酔をしてゐる人が二、三人出來た、種々な唱歌を大唱しながら船は波立沖に來た、鰐ケ淵の磯に飛び散るしぶきも仲々壯觀だつた、こゝから歸途につく

かうして約四十分に亘る船遊會も非常に愉快に無事にすんだ海國少年の勇しい一つ〳〵の心の中に海に對する强い信念が生れたことだらう。

午後は曇天で海水浴も出來ず相撲大會をして大いに元氣、客も隨分あつた、夕食後海岸で花火大會、八時半就寢。

漂着死体身許

十五日朝豊間村沼之內海岸に漂着した溺死体は平署で檢死の結果久之濱沖合で遭難の第五幸壽丸水夫長宮城縣本吉郡生れ中村松太郎（五五）と判明した

偲ぶ皇軍の苦戰
滿支視察の旅……45
關內正一

再び市街戰の跡を見る、八字橋—これは我陸戰隊の尖端陣地であつたと云ふ。一本の大きな銀杏の木がある。商務印書館—これは頑敵の牙城であつた、見事なる空爆の跡、蜂の巣の樣に打ちこはされてゐる。北停車場も跡かたもない。此邊一帶は見渡す限りの燒野原である。

四行倉庫の頑敵—此處は蘇州河の岸邊にある大きな倉庫で向側も租界である、北停車場より四行倉庫に至る迄は一方は幅狹い道路を隔てゝ租界地に接續してゐるが、租界地には些かの損害も無い、我空軍の適確な爆擊と皇軍の苦心の程には只々頭が下るばかりである。

我が國は二度市街戰の慘苦を嘗めたのである、三度此の慘苦は嘗められない。如何なる新政府が出來て、如何なる和平條件が提訴されても現在の占領地區には永久に駐兵だけは確保せねばならない、斯くする事が東亞新秩序、東亞永遠の平和樹立の根本要素であると思ふ。

日本は余りに潔癖過ぎる、明治三十三年の義和團事變の時も諸外國が、それぞれ利權を獲てゐるのに日本は何物も得て居ない。更に加藤、幣原外交當時の二十一ケ條の如きも殆んど空文に等しく、只支那人に國辱記念日として恨まれてゐるに過ぎない、實に情けない次第である。

今や日本は自分の實力を自分でも認め、諸外國もしつかりと認めたのである。誰に遠慮の必要があるか、國策を樹てたら一路前進あるのみである。斯くの如きこそ八紘一宇の大精神の存する所以なりと確信するものである。

平市人事錄

○出生　鯨岡宇田中山松崎武男さん四男武之進

◎婚姻　一丁目二五桐田ミツさん（三五）と東京市淺草區菊屋橋窪井健治さん（四〇）

▲死亡　材木町一九當時東京市世田ヶ谷幸次郎さん孫根本憲一君（一）

天氣豫報

今晩は南西の風曇後晴
明日は南の風晴夕立模樣

!!! 電話開設 !!!
三百六十五番
平市仲町二三
平調度社
坂本浩
營業種目
販賣、購買品の調度—購買代金の立替—商品の廣告宣傳—人事百般の調査—その他代理用達

配達員募集
至急入用
四倉支局

祈皇軍武運長久。暑中御伺申上候（三）

四倉町役場
町長 新妻盛
助役 長谷川林平

四倉郵便局長 菅波林太郎

町會議員 鈴木幸次郎

萬年瓦工業株式會社
四倉驛前

大日本電力株式會社 四倉變電所
原田電話六番

大浦村助役 渡邊周平

四倉警防團長
町會議員 金成岩吉

保證責任 四倉信用販賣購買利用組合
電話百三十六番

四倉料理屋 保健組合

四倉產婆會
會員 一同

四倉藝妓屋組合
電話三十一番

四倉合同運送株式會社
四倉驛前 電話二番

佐藤齒科醫院
新町 電話一四八番

長谷川齒科醫院
仲町 電話二一一番

菅波齒科醫院
本町 電話一九四番

福島製氷株式會社
四倉工場
猪狩寅藏

銘酒『奥の松』『花井譽』『大七』
發賣元 大平酒店
四倉町 電話一三五番

日本石油特約店
株式會社 關彰商店
四倉支店
驛前 電話四八番

額賀醫院
院長 額賀襄
副院長 額賀毅
四倉町 電話四番

四倉驛前
鈴木牛乳店
電話一一四番

双葉郡久之濱町役場
町長 新妻定藏
助役 村岡敬一郎
收入役 大須賀熊吉

菅波醫院
院長 菅波茂
四倉町本町 電話六三番

銘酒 稻妻
古川支店
四倉新町 電話一〇番

吉田醫院
院長 醫學博士 吉田正
四倉仲町 電話三三番

醫油 味噌 釀造
鱗屋醫油店
四倉町 電話一〇八番

鑛泉旅館 藤屋
高木勝太郎
大野村湯之澤

西山眼科醫院
西山義惠
四倉町本町 電話一五一番

海水浴旅館
海氣館
柏屋
旭館
太平館
松本屋
鈴木屋

長谷川材木店
四倉仲町 電話百二四番

味噌 醬油 釀造
高木屋商店
大浦村仁井田 電話一二六番

岩井屋食堂
四倉仲町幸町通り

本多昆布製造工場
本多辰吉
四倉海岸 電話一五三番

銘酒『福美』
四家酒店
四倉仲町 電話一四五番

保證責任 大浦信用販賣購買利用組合

鑛泉旅館 石屋
草野又藏
大野村湯之澤

大久村役場
村長 石川倉吉
助役 根本六郎
收入役 佐藤重治

大野村役場
村長 吉田保之助
助役 荒川庸幸
收入役 宮本竹治郎

四倉小學校
職員會 一同

磐城時報四倉支局
渡邊米藏

謹啓 誠操院の新盆に相當り候處時局に鑑み乍勝手提灯其他の供物等御贈與の儀固く御辭退申し上候

尚萬一御屆け被下候とも乍失禮御受け致兼候に付右不惡御諒承願上候

昭和十四年八月十五日
平市四丁目
猪狩庄平

謹啓 實想院大光院の新盆に相當り候處時局に鑑み乍勝手提灯其他の供物等御贈與の儀固く御辭退申し上候

尚萬一御屆け被下候とも乍失禮御受け致兼候に付右不惡御諒承願上候

昭和十四年八月十六日
平市二丁目
根本喜吉

謹啓 萬德院智豐性海芳香居士の新盆に相當り候處時局に鑑み乍勝手提灯其他の供物等御贈與の儀固く御辭退申し上候

尚萬一御屆け被下候とも乍失禮御受け致兼候に付右不惡御諒承願上候

昭和十四年八月十六日
四倉町字仲町
植田萬次郎

謹啓 性善院淳厚院の新盆に相當り候處時局に鑑み乍勝手提灯其他の供物等御贈與の儀固く御辭退申し上候

尚萬一御屆け被下候とも乍失禮御受け致兼候に付右不惡御諒承願上候

昭和十四年八月十六日
四倉町字本町
小湊正

謹啓 廉正院弘覺亮禪居士の新盆に相當り候處時局に鑑み乍勝手提灯其他の供物等御贈與の儀固く御辭退申し上候

尚萬一御屆け被下候とも乍失禮御受け致兼候に付右不惡御諒承願上候

昭和十四年八月十六日
四倉町字本町
菅波茂

謹啓 清淳院弘惠亮居士の新盆に相當り候處時局に鑑み乍勝手提灯其他の供物等御贈與の儀固く御辭退申し上候

尚萬一御屆け被下候とも乍失禮御受け致兼候に付右不惡御諒承願上候

昭和十四年八月十六日
四倉町字仲田八五
江口勇